

治療戦略概論

責任者・コーディネーター	情報薬科学分野 西谷 直之 教授		
担当分野・学科(分野)	情報薬科学分野、薬剤治療学分野、地域医療薬学分野		
対象学年	5	区分・時間数	講義 13.5 時間
期間	前期		
単位数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

医師や歯科医師は根拠に基づく医療(Evidence-Based Medicine、EBM)を通じて診断・治療方針を決定する。これらを理解することは、調剤や服薬指導など薬剤師業務を遂行する上で重要であるとともに、チーム医療において医療従事者間の円滑な意思疎通に不可欠である。医療チーム構成員が、同じ情報を共有し、合意のもとに診療方針を立案・検討することにより、治療の質的向上や透明化が期待される。本講義では、代表的な疾患についての診断・治療方針を学ぶことで、薬学専門科目の知識と技能を実地臨床において活用できるようになることを目指す。

・教育成果（アウトカム）

重要疾患の標準療法を用いて薬学専門科目の知識を統合し、疾患ガイドラインを中心とした処方設計の基本概念を習得し、チーム医療の一翼を担う薬剤師となるための基盤を形成する。
(ディプロマ・ポリシー：2,5,6,7,8,9)

・到達目標（SBO）

1. EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。(774)
2. メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。(777)
3. がん化学療法の代表的なレジメンを列挙できる。(718)
4. がん化学療法の副作用対策における代表的な処方例を列挙できる。(717)
5. がん疼痛の薬物療法における処方例を列挙できる。(729)
6. 高血圧治療の代表的な処方例を列挙できる。(638)
7. 糖尿病治療の代表的な処方例を列挙できる。(669)
8. 心房細動の代表的な処方例を列挙できる。(635)
9. 脳塞栓症の代表的な処方例を列挙できる。(610)
10. 処方設計の過程を概説できる。(☆)
11. 処方医薬品の処方意図を説明できる。(☆)
12. 適応外使用する医薬品を列挙できる。(☆)

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/22	木	3	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	<p>総論 診療ガイドライン 各論（１）がん化学療法ガイドラインと代表的なレジメン</p> <ol style="list-style-type: none"> EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。 メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。 代表的ながんのガイドラインを理解し、治療法および治療薬の選定の根拠を説明できる。 がん化学療法の代表的なレジメンを列挙できる。 <p>事前学習：4 学年までに学習した肺がんの薬物療法について復習する。 事後学習：講義を振り返り、資料をまとめておく。</p>
4/23	金	3	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	<p>各論（２）がん化学療法ガイドラインと代表的なレジメン</p> <ol style="list-style-type: none"> 代表的ながんのガイドラインを理解し、治療法および治療薬の選定の根拠を説明できる。 がん化学療法の代表的なレジメンを列挙できる。 <p>事前学習：4 学年までに学習した乳がんと大腸がんの薬物療法について復習する。 事後学習：講義を振り返り、資料をまとめておく。</p>
4/27	火	3	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	<p>各論（３）医療用麻薬を用いた疼痛緩和の実践的処方</p> <ol style="list-style-type: none"> がん疼痛の薬物療法における処方例を列挙できる。 <p>【双方向授業】【ICT (Google Form)】 事前学習：がん疼痛コントロールの理解に必要な「オピオイド」について説明文を作成する。 事後学習：講義資料と確認小テストを復習する。</p>
4/28	水	3	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	<p>各論（４）がん化学療法の副作用対策</p> <ol style="list-style-type: none"> がん化学療法の副作用対策における代表的な処方例を列挙できる。 <p>事前学習：4 学年までに学習したがん化学療法の副作用対策について復習する。</p>

					事後学習：講義を振り返り、資料をまとめておく。
5/6	木	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>各論（５）生活習慣病の治療ガイドラインと代表的な処方ー高血圧、糖尿病</p> <p>1. 高血圧、糖尿病のガイドラインを理解し、治療法および治療薬の選定を説明できる。</p> <p>【双方向授業 ICT (google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
5/7	金	4	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	<p>各論（６）処方設計と処方意図、適応外使用する医薬品</p> <p>1. 処方設計の過程を概説できる。（☆）</p> <p>2. 処方医薬品の処方意図を説明できる。（☆）</p> <p>3. 適応外使用する医薬品を列挙できる。（☆）</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google Form)】</p> <p>事前学習：到達目標 (SBO) 10,11,12 について事前に配布する資料を読んでキーワードについて説明文を作成する。</p> <p>事後学習：確認小テストを復習する。</p>
5/11	火	3	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>各論（７）生活習慣病の治療ガイドラインと代表的な処方ー心房細動と脳塞栓症</p> <p>1. 心房細動および脳塞栓症に関し、その病態および治療ガイドラインを理解し、治療法および治療薬の選定を説明できる。</p> <p>【双方向授業 ICT (google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
5/13	木	3	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	<p>まとめ</p> <p>【その他（臨床課題演習）】</p> <p>事前学習：講義資料や診療ガイドラインなどをまとめて、使いこなせるようにする。</p> <p>事後学習：演習を振り返り、課題について再考する。</p>

5/13	木	4	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	まとめ 【その他（臨床課題演習）】 事前学習：講義資料や診療ガイドラインなどをまとめて、使いこなせるようにする。 事後学習：演習を振り返り、課題について再考する。
------	---	---	---------	----------	--

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	乳癌診療ガイドライン1 治療編 2018年版	日本乳癌学会 編	金原出版株式会社	2018
参	患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2016年版	日本乳癌学会 編	金原出版株式会社	2016
参	よくわかる肺がん 日本肺癌学会公認	中西洋一監修	西日本がん研究機構	2014
参	大腸癌治療ガイドライン 2019年版	大腸癌研究会 編	金原出版株式会社	2019
参	がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版	日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会 編	金原出版	2014
参	制吐薬適正使用ガイドライン 2015年版	日本癌治療学会 編	金原出版	2015

・成績評価方法

臨床課題演習（100%）で評価する。

・特記事項・その他

4 学年までに学習した薬物治療関連科目を復習し事前学習とすること。事前学習すべき内容は、次回の講義で扱う疾患等であり、1 時間程度の時間を要する。事後学習には 2 時間を要する。定期試験として扱う臨床課題演習は、資料持ち込み可とする。試験の正解を公開し、実務実習前の自学習に利用できるようにする。授業出欠マークシートには自由記載欄があり、教員への質問や要望を伝えることができる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（SONY, SVP11229EJB）	1	資料作成、講義